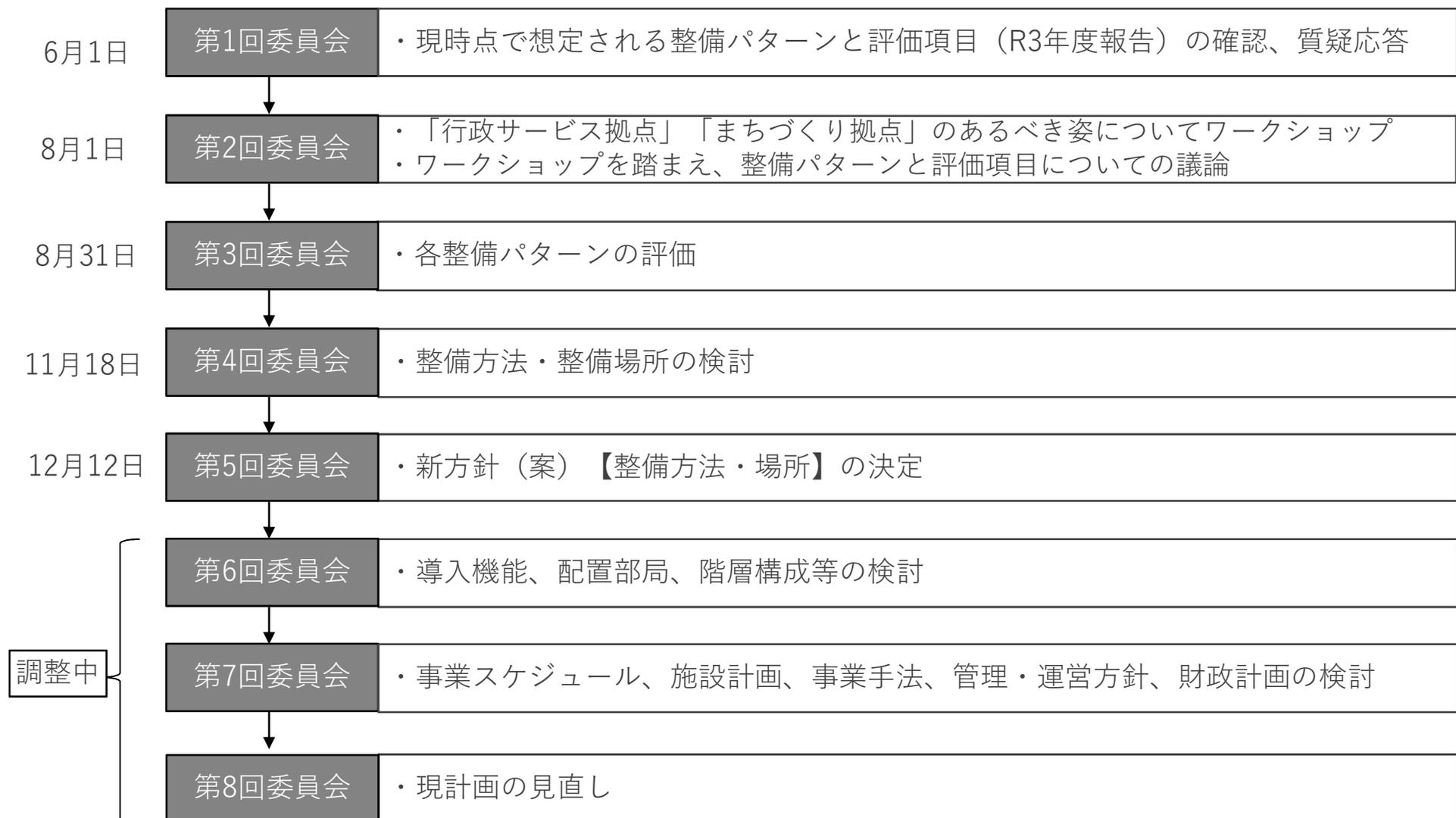

資料 3 : 報告資料

(3) 前回議論の整理

第3回委員会意見の整理

分類	意見の概要	備考
コスト評価	<ul style="list-style-type: none"> □ 年間あたりのコストには各案で大きな差がない。他の評価項目も含めて総合的に考えていくべき。(黒瀬委員) □ 清水庁舎のコストに静岡庁舎で働く職員(現清水庁舎からの配置転換に伴うもの)のテナント賃料を含めることはコスト評価として疑問に思うところがある。(黒瀬委員) 	
駐車場等の問題点	<ul style="list-style-type: none"> □ 来庁者は車利用が多く、近接する駐車場の確保が必須。駐車場が確保できないのは根本的なデメリットとなる。(田宮委員、黒瀬委員) □ 周辺道路混雑への影響は考慮が必要。(田宮委員、伊東委員) 	
跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> □ 庁舎移転と跡地活用はセットで考える必要がある。(加藤委員) □ 民間による跡地利用を行う際、まちの現状を維持するのか、更に発展するような形を目指すのか、条件をつけて転売することも1つの方策なのではないか。(牛場委員) 	
まちづくり拠点としての評価	<ul style="list-style-type: none"> □ 静鉄新清水駅とJR清水駅は乗降客数でおそらく3倍以上の差があるため、JR清水駅の方が高評価では。(黒瀬委員) □ 現庁舎の周辺地域は大型ホテルの撤退など、更地になる状況も続いている。庁舎が現在地に居続けた方がまちづくりとしても引き続き貢献してくれるのではないか。(石垣委員) □ 移転建替の方がまちへのインパクト(にぎわい創出や避難場所の提供など)はプラスになる可能性がある。(加藤委員) □ 庁舎があることは周辺の商業者にとって追い風だが、実際に商店街まで来てもらうには別の努力が必要。(伊東委員) 	
改修案の考え方	<ul style="list-style-type: none"> □ 減築改修をすると、庁舎への愛着のある市民は寂しい思いになるのでは。(石垣委員、関委員) □ 改修、減築を行う場合、現庁舎をそのままの形で残すことは難しい。(黒瀬委員、恒川委員長) □ 改修の程度は、外壁を残すのか、抜本的に全部やり替えるのか、あるいは議場を残すのか、減築をどの程度やるのか、様々な要因によって変わる。最低限機能する形での改修か、より、まちづくりの拠点や行政サービスの拠点としてふさわしい形での改修かの判断が重要。(黒瀬委員、恒川委員長) □ 改修における不安材料(整備中の行政サービスへの影響)について、詳しい説明をお願いしたい。(堀川委員) 	
将来変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> □ 将来の人口減少が想定される中で、長期的には余分な床を維持管理しなければならない状況も想定し、どの程度の面積を持つことになるのかを十分に考えるべき。(黒瀬委員) □ 今は清水のまちが変わろうとしているタイミングであり、今新築をしてしまうと65年は使用し続けなければならない。ある程度の改修をしておいて、後から変化に対応した庁舎の整備を再検討するという考え方もある。(田宮委員) 	

清水庁舎整備検討委員会の検討スケジュール（R4.11.18時点）



※ 現時点での想定する検討スケジュールであり、今後、委員のみなさまの意見等により変更する可能性があります。
 ※ 会議の内容により、書面開催とさせていただく場合があります